

スポーツ産業論		講義	講師 菅谷 美沙都
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312206 12220213 13220206 11532203 12532203 13532203

1. 授業のねらい・概要

私たちにとってスポーツは非常に身近なものとなり、スポーツを楽しむ場所や機会は飛躍的に増大した。スポーツ参加の機会は増えるとともに、私たちはスポーツにおいても消費行動を展開するようになった。この授業では、スポーツ観戦やスポーツ関連商品の消費行動から、プロスポーツのクラブビジネス、プロリーグの構造などスポーツ産業全般を理解するとともに、スポーツ産業の諸領域の今日的な課題を議論する。将来、スポーツ関連の仕事に携わりたいと考えている学生にとって、スポーツの価値を活かし、スポーツ産業界で仕事を創り出すとはどういうことなのか、具体的なイメージを抱けるようになることを目指す。

2. 授業の進め方

授業ではレジュメを配布する。また、隔回授業最後にリアクションペーパーを提出し、授業内容の理解度を確認する。

3. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、成績と評価について等）	9. 日本のプロスポーツ①（リーグの構造）
2. スポーツ産業とは（スポーツ産業の領域、スポーツ市場の現状）	10. 日本のプロスポーツ②（プロ野球のマネジメント）
3. スポーツ用品産業	11. スポーツスポンサーシップ
4. スポーツ施設産業	12. 権利ビジネスとしてのスポーツ（スポーツ選手の契約、企業との権利関係）
5. スポーツサービス情報産業（スポーツとメディア）	13. スポーツファンを知る（みるスポーツとしてのビジネス展開）
6. フィットネスクラブのマネジメント（フィットネス産業の現状、サービス特性）	14. 海外のプロスポーツ（欧州の事例）
7. クラブ事業のマネジメント（チーム、クラブ、球団、ステークホルダー）	15. 大学スポーツの産業化を考える／まとめ
8. オリンピックとスポーツ産業界（オリンピック開催を巡る諸問題）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し、疑問点を明確にしておくこと。また、次回の講義内容に関する時事問題（新聞記事などを事前に配布することもある）を自ら調べること。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の直後、解答のポイントや評価の基準に関する説明を行う。また、中間レポートやリアクションペーパーについては、授業内で優秀な回答例を紹介し評価の基準等の解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツ産業の成り立ちや全体像を理解し、個別具体的なスポーツ産業領域の現状を理解する。

また、スポーツ産業の諸領域における今日的課題について理解を深め、論理的に自分の意見を記述できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（50％）、中間レポート及びリアクションペーパー（30％）、授業態度（20％）をみて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は特に指定しない。適宜、資料・プリントを配布する。

参考文献：原田宗彦 編著「スポーツ産業論第7版」（杏林書院，2021）

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。